

「福祉」をテーマに学習しよう」の実践

小平町立鬼鹿小学校 濱野 陽子、永沼慧久男

◆単元のポイント~~~~~

○発想の始まりは、子供に身に付けさせたい力

この単元は、子供にどのような力を身に付けさせるかを、まずしっかりと決めるところから発想しています。変化の激しい、複雑な社会を主体的に生きていく子供を育成するため、生き方を考えることも含めた、学び方やものの考え方を身に付けさせることを中心に単元を構成しています。

○学習対象は、現実社会である地域

子供は、本来、現実社会の中で、人とのかかわり方や思いやりなどの社会性を身に付け、生き方を考えながら、人間形成をしていくと考えます。

「総合的な学習の時間」のねらいである「生き方を考える」には、子供が社会と初めてかかわる地域から学ぶことが必要と考えました。そこで、地域の特色であり、今日的な課題である「福祉」を課題とし、地域素材を活用しています。



○学習方法は、問題解決的な学習

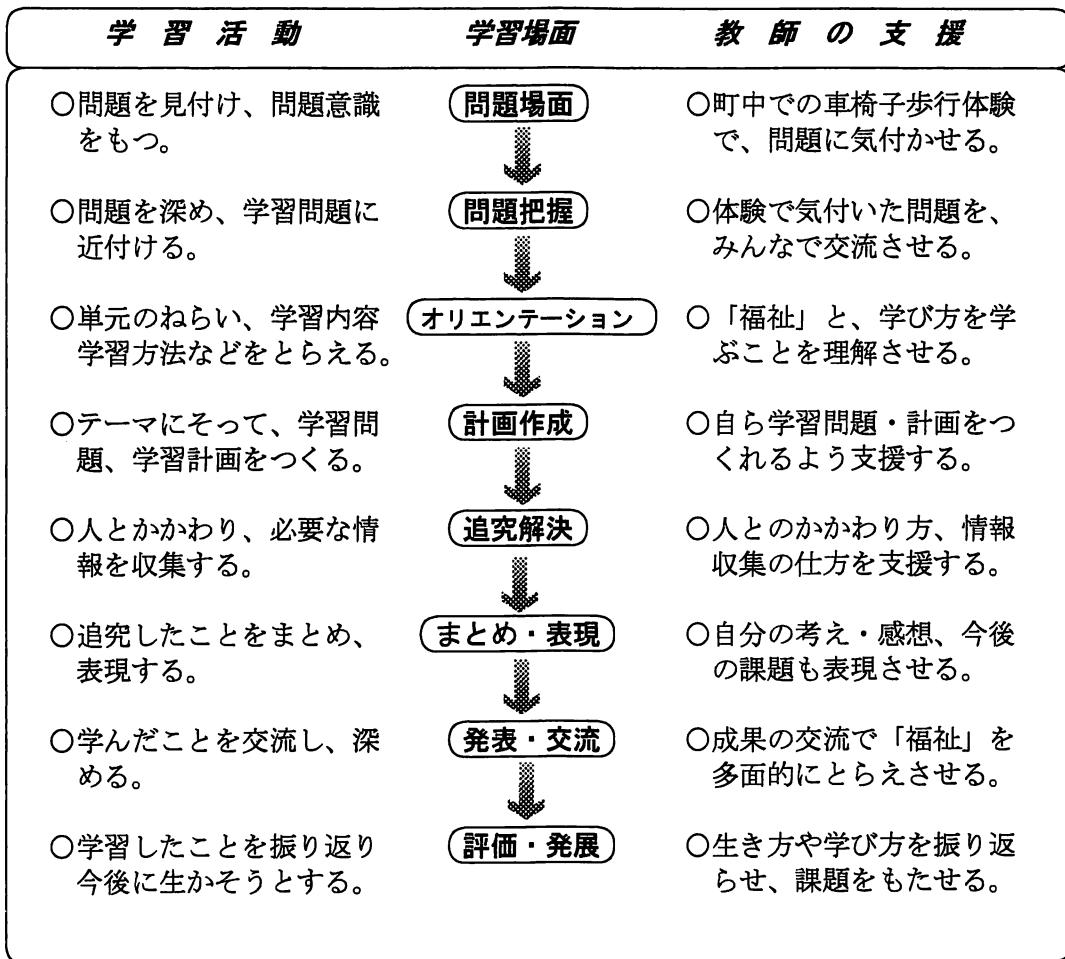
「福祉」をテーマに、学び方やものの考え方を身に付けさせるためには、その力を育成する場面を設けた問題解決的な学習を行うこととしました。学習活動では、子供自身が身に付けるべき力を理解し、主体的に活動が行え、自分の変容を自己評価できるような工夫を図ることとしました。

◆単元の目標~~~~~

- 問題解決的な学習を通して、学び方やものの考え方を身に付けようとする。
- テーマにそって、学習問題をつくり、学習計画を立てることができる。
- 問題解決のために地域、人とかかわり、交流し、必要な情報を収集、まとめ、自分の考えをもち、それを効果的に表現することができる。
- 小平町の特色であり、今日的な課題である「福祉」について問題意識をもち、多面的にとらえることができる。

◆単元の構想（16時間扱い）~~~~~

「福祉」をテーマに学習しよう



◆実践するにあたって~~~~~

この実践では、単元の導入で子供の学習意欲を喚起し、関心を「福祉」に導くことや、子供自身が「総合的な学習の時間」のねらいを理解し、「福祉」をテーマに自ら学習問題・計画を作成して、人とかかわり、情報を収集する追求活動ができるることを目標としました。そのため、「問題場面」「オリエンテーション」を設定し、学習計画表の作成・活用、ウェビング法やKJ法の活用、地域の人たちとの連携など、様々な手立てを講じ、子供が主体的に活動できる学習を目指しました。

子供が学ぶことに楽しさや成就感を味わい、学びによる自分の変容を自覚し、それを楽しみ、学ぶことへの意欲がもてることで、自ら問題を見出し、自ら学び、生き方を考える子供が育成できると考えます。